

平成26年度に開催を予定している企画展について

	展覧会名(仮称含む)	会 期	概 要	備 考
近代美術館	探幽 3 兄弟展	H26. 4. 19～6. 1	江戸幕府の開府とともに江戸で狩野派を開き、江戸絵画の基礎を成した狩野探幽、尚信、安信 3 兄弟に焦点をあて、桃山時代から江戸時代へと移り変わる激動期の絵画の魅力を伝える。3 兄弟の作品を初めて一堂に展示することにより、江戸狩野派の成立過程や 3 兄弟のそれぞれの役割や画業を探る。	板橋区立美術館との協力事業
	開館40周年記念 (いちきゅうななよん) 1974 第1部	H26. 6. 28～8. 24	【第1部 1974年に生まれて】 近代美術館が開館した1974年生まれの作家によるグループ展示。40周年にちなんだ作品の制作・展示を依頼。近代美術館の40年の歩みを浮かび上がらせ、地方公立美術館のあり方を再考する。	
	開館40周年記念 (いちきゅうななよん) 1974 第2部	H26. 9. 13～11. 3	【第2部 1974年・日本・美術】 明治百年記念事業の一環としての近代美術館設立を回顧しつつ、開館当時の日本や群馬県の美術の状況を検証する。イベントやワークショップを行い。県民が美術館の歴史に自らの歩みを重ね合わせて鑑賞できる展示とする。	
	群馬青年ビエンナーレ 2015	H27. 1. 24～3. 22	16歳～30歳の作家を対象に全国公募し、その入選作品を展示する。同ビエンナーレは、1991年以降、近代美術館が隔年で開催してきた公募展で、若手作家育成の場として高い評価を受けている。	
館林美術館	陽光の大地—ブラジルの 日系人画家たちと大岩オ スカル	H27. 4. 26～6. 29	サンパウロ在住の現代美術のコレクター、リカルド・タケシ・赤川氏により兵庫県立美術館に寄贈されたコレクションを中心に、日系人画家たちの活動を紹介する。また、移民2世としてブラジルに生まれ、国際的に活躍する大岩オスカルに焦点を当て、国内に所蔵される作品を加えて展示する。	
	夏休み！いきもの図鑑	H26. 7. 19～8. 31	いきものの姿かたちの美しさ、生命力、その生態を観察し、生き生きと描いた挿絵画家たちの多彩な表現を紹介するとともに、自然を愛し、写実に基づいた細密表現を好む現在の若い作家たちの作品も鑑賞できる展示を行う。	
	オリエントの煌き	H26. 9. 20～11. 30	東西交流そして文化の華と言われたカット・グラスと陶磁器の至宝と言われるラスター彩を中心に、ガラス、ラスター彩、金銀器・コイン、三彩に焦点を当て、ペルシャから東に向かい、中国を越え日本に渡りいわば悠久の時空をたどった「運命の線」を手繰っていく展示を行う。	
	冬季コレクション展示	H26. 12. 20～H27. 4. 5	「自然と人間の関わり」をテーマに作品収集や展覧会等を行ってきた館林美術館のコレクションを中心に展示を行う。	

	展覧会名(仮称含む)	会 期	概 要	備 考
歴史博物館	※企画展については現在実施していない。また、改修工事実施のため、平成26年10月から休館予定。			
	コレクション展示	(平成26年度上半期)	(展示内容を調整中)	
	巡回展	(平成26年度下半期)	「館蔵資料コレクション展示」(未定)として、館が編成するコレクションメニューから開催館が展示内容を選択して展示する。	
	蔵出し展	(平成26年度下半期)	「長楽寺文書の世界」(仮称)として、館蔵の長楽寺文書(国重文)複製品から新田氏文書等を選定し、長楽寺の歴史を紹介する。【会場：県立文書館】 「高山社資料展」(仮称)として、世界遺産候補「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産である高山社の歴史を紹介する。【会場：藤岡歴史館】	
	出張展示	(平成26年度)	従来から実施してきた県庁31階物産展示室や東京のぐんまちゃん家での展示に加え、新たに「古代東国文化展」を実施する。【会場：「群馬県博物館連絡協議会」の加盟館から2館を選定する】	
自然史博物館	むし 虫 ウオッチング2 巨大昆虫の逆襲	H26. 7. 12～8. 31	館蔵の昆虫標本コレクション(寄贈品)や手のひらからあふれるほどの外国産昆虫を展示するほか、カブトムシやアゲハを100倍大に拡大した模型を配置して展示室に昆虫の世界を創り出す。昆虫への理解を深めながら、自然や環境についてじっくりと考える機会を提供する展示とする。	
	闇夜の動物たち	H26. 10. 4～11. 30	夜間の動物の生態は普段目にすることがなく、人が測り知ることのない世界が広がる。闇夜に生きる動物たちの生活を紹介します、自然への知見を深める機会を提供する。	
	自然のフォトギャラリー 「カラー魚拓アーティスト山本龍香の世界」	H27. 1月～2月	カラー魚拓アーティストの山本龍香氏の動植物魚拓作品群を展示する。作品は、芸術的な観賞ができる一方で、観覧者が自然に生きる動植物の神秘や造形に迫る機会を与えてくれる。館蔵の標本類を併せて展示し、生物の生態や形態にも理解を深めていただく。	
	根も葉もない植物の話ー 変わり者から見る植物のかたち	H27. 3. 14～5. 10	普段見慣れた存在である植物であるが、形態的な可塑性が高く、その形態は千変万化で、奇想天外な形態を示すものや、ある器官が別の器官の役割を代替することも多い。本展示では、そのような植物の形態を、珍奇な形態をする植物や身近な植物を通して解説する。	
土屋文明記念文学館	文豪 田山花袋	H26. 4. 19～6. 15	日本の近代小説の黎明期に、自然主義文学の旗手として重要な役割を果たした田山花袋を初めて取り上げる。館林市立田山花袋記念文学館と協力し、多数の花袋宛書簡をはじめとする同館所蔵資料を借用、自然主義文学の意義や同世代の国木田独歩・柳田国男らとの交流等多角的な視点から焦点をあてる。	館林市立田山花袋記念文学館との連携事業
	雑誌王 野間清治	H26. 7. 12～9. 15	今の桐生市出身で、講談社の前身である大日本雄弁会を創業した野間清治を取り上げる。「少年倶楽部」や「キング」などを創刊し、戦前の出版界に大きな業績を築いただけでなく人材育成にも力を注いだ側面などを紹介する。	桐生市立図書館との連携事業
	山村暮鳥生誕130周年 記念展	H26. 10. 4～12. 7	今の高崎市に生まれた詩人・山村暮鳥の生誕130年を記念した企画展。詩をはじめとする、小説、童話などの諸作品および自筆原稿や書簡類を通して山村暮鳥の生涯をたどるとともに、今も色あせない暮鳥作品の魅力を紹介する。	高崎市・高崎市文化協会 群馬支部との連携事業
	秘蔵直筆資料展	H27. 1. 18～3. 15	館所蔵コレクションの中から、「日根野コレクション」、「石田コレクション」を中心に、近代日本文学史に大きな足跡を残した文学者たち(谷崎潤一郎、太宰治、武者小路実篤、夏目漱石、若山牧水、与謝野晶子等)の原稿、書簡など貴重な直筆資料を紹介する。	